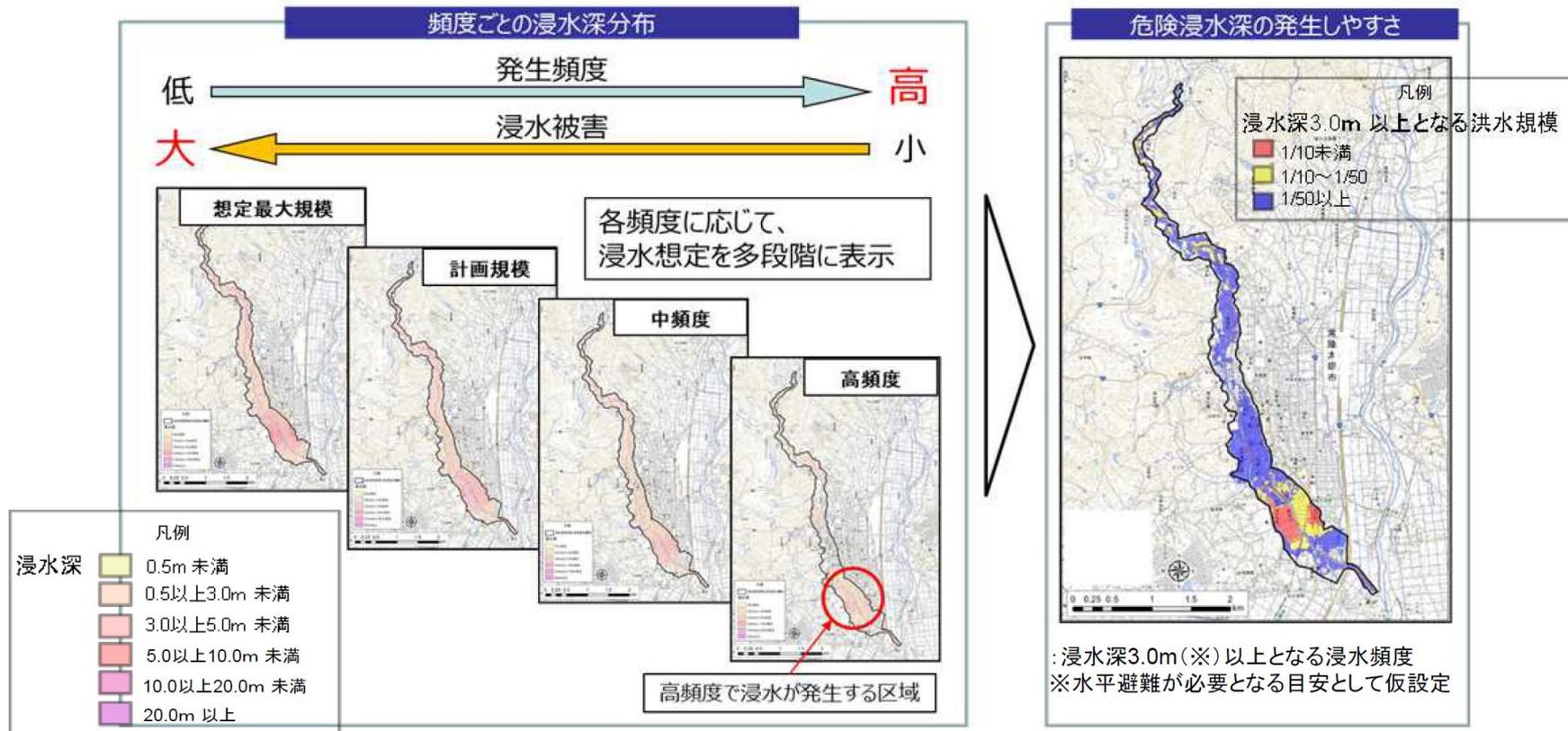


- 防災まちづくりにおける対応の検討に資する形のハザード情報としては、想定最大規模・計画規模だけでなく、中高頻度の外力規模（例えば、年超過確率1/10、1/30、1/50）も加えた多段階の浸水想定や、施設整備によりハザード情報がどのように変化するかなど、時間軸や外力規模に応じた多段的な浸水リスクの周知が必要。
- 多段階の浸水想定区域図を用いた危険浸水深の発生しやすさを評価することで、地域内のリスクを相対的に評価可能となる。



## 多段階の浸水想定区域図を用いた危険浸水深の発生しやすさの評価

(水災害リスクを踏まえた防災まちづくりのガイドラインより)

